

平成 25 年度 わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成 2 5 年 5 月 1 日 (水) 午後 6 時
- 2 会 場 深沢コミュニティーセンター 会議室
- 3 出席者 深沢有志の会 30 名、市長、随行職員 2 名
- 4 次 第
 - (1) 開 会
 - (2) 深沢有志の会 代表あいさつ
 - (3) 市長講話『これからの中野市』
 - (4) 質疑応答・意見交換会
 - (5) 閉 会 (午後 7 時 10 分終了)



1 変化への対応

○人口減少、少子高齢化社会

- ・課題先進国日本…日本は世界の先頭を切って高齢化社会を迎えようとしている
 - いかに日本がこの課題に対応するか世界が注目している
 - ⇨この課題を克服するノウハウを築くことができれば先進国としてさらに評価される
- ・地域活性化における先進性の追求
 - 地域が自主的に活動し、それが国家としての活性化につながっていく

○北陸新幹線開業

- 人流の増加、商流の増加 ⇒ ビジネスチャンスの増加
- ・北陸の観光客が北信州（信越自然郷）へ流れてくる可能性
 - JRに余剰運輸力が発生し、それを利用して各旅行会社がツアー組んでくる見込がある。
 - ・「旅の形」が変化
 - 今までは「消費文明」（大都市など物を売る場所）が人気だったが、これからは「生産文明」（ものづくりの場所）へ人気がシフト
- ↓
- *中野市はどのように取り組んでいくか

2 中野市のポテンシャル

○中野市のポテンシャル

- ・自然環境…豊かな自然に育まれた、自然と共生する世界が広がる地域
 - ・人文環境…千曲川流域に広がる遺跡群と古代からの歴史が積層をし、文化の創出と穏やかな暮らしが営まれてきた地域
 - ・生産環境…農業、商業、工業、サービス業がバランスを保持
- ↓
- *資源の再発見、新たなコンセプト、情報発信が必要となる

○中野市の豊かな観光資源

- ・中野市の観光資源はこれだけではない（※資料1 参照）
 - 中野の「普段」を出すことで観光客は喜ぶ
 - （中野市に来て、都会的な物や食べ物（都会と同じもの）を提供しても喜ばれない）

2-3 中野市の豊かな観光資源

因みに中野市の例を挙げると

- ・有形文化財(29)
- ・無形文化財(1)
- ・有形民俗文化財(5)
- ・無形民俗文化財(9)
- ・史跡(12)
- ・天然記念物(11)
- ・中山晋平、高野辰之、久石譲氏 歌手－麻衣さん
- ・姉妹都市、音楽姉妹都市、知音都市交流
- ・きのこ類
- ・菊池梨月、町田曲江、三沢忠氏の絵画
- ・寺瀬熱山の彫刻 市所蔵の美術品800点
- ・中野御杖、笠原御杖と安源寺馬市の歴史、200点に上る山岸コレクションの馬具
- ・下高井郡中野町の起点となった道路元標の復元
- ・御天領
- ・高井富士とその風景
- ・グリーンツーリズム
- ・医療ツーリズム
- ・バラ祭り etc.



3 地域ブランドコンセプト

○ブランドとして確立している地域とは

地名が広く知れ渡っていること＋豊かな連想の世界が広がること

(名前を聞いただけでその場所の景観が浮かび、名所や特産品が連想されること)

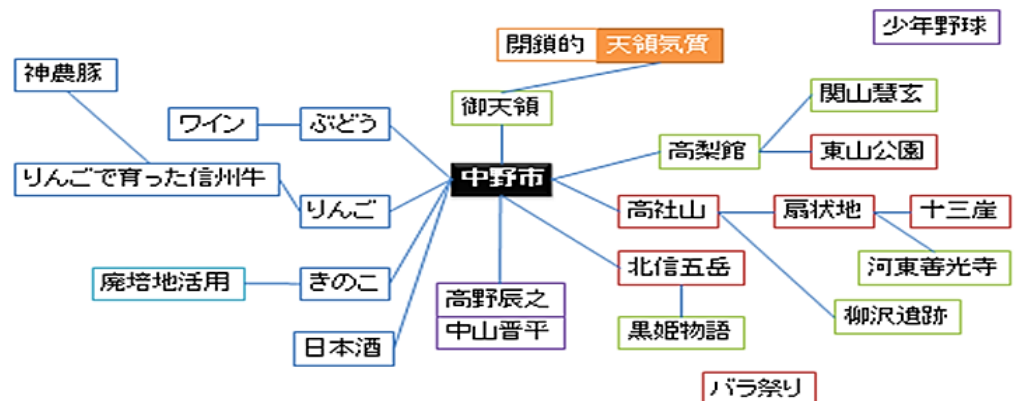
○中野市の地域ブランド作り

- ・地域とは風土や自然環境の中で成り立ち、人々の営みの中から地域独特の文化が生まれており、様々な資産がバラバラではなく有機的かつ必然的なつながりを持っている。

→1つ1つの資産を単独でとらえアピールするのではなく、つながりを意識した一連の文化としてアピールしていく。

3-2 中野市の地域ブランドづくり

地域とは、**風土や自然**という環境の中で成り立ち、人々がそこに暮らし、日々の営みの中でその**地域独特の文化**を持っており、さまざまな資産がバラバラでなく**有機的かつ必然的なつながり**を持っている。



○中野市の地域振興におけるコンセプト

- ・例として「健康」というコンセプト
 - ・中野市の農産物を使った健康に良いものを生産、販売する
 - ・医療分野の充実（北信病院等中核医療施設の充実）
- ・景観の良さをアピール
 - 絶景ポイントに何か印となる建造物を配置する

○シティーセールス戦略

- ・中野市の魅力を発信
- ・周辺地域（信越自然郷）とのブランドコンセプトの共有
- ・中野市にはないものでも、周辺地域との連携を図り、広域（信越自然郷）として癒しの地という形はどうか

○地域のコンセプト

- ・地域力が今こそ必要
 - 各地区のブランドが一つに集まって中野市のブランドとなる

○今後の取り組み方

- ・いろいろな映像やストーリーで中野市をアピールしていきたい

4 地域力アップ戦略

○市民の皆さんと共に考える

- ・もう一度中野市にしかない価値を見直す
- ・どのようなストーリーをもって中野市のコンセプトを作るか考える
- ・地域で協働して自分たちの地域をどうしたいか自分たちで考える（具体的にどうすればよいかということを地域単位で考え、提案していく）
- ・「できない」と考えず、「できる」という発想で考える



◆◆質疑応答・意見交換◆◆

(質問1) 北信病院の医師不足について

- ・地域振興のコンセプトとして健康が上がっているが、北信病院等の施設面の充実に対して医者数が不足していると考え、対策として何か検討しているか。

(回答1) 医学部生への奨学金(中野市で将来医師として勤務することが条件)で対策を行っている。

(質問2) 結婚支援活動について

- ・中野市では結婚支援活動は行っているのか。また今後どのようなことを検討されているのか。

(回答2) 中野市社会福祉協議会主催で婚活パーティーのようなものを企画、運営している。他の市町村では30歳の成人式を開催し出会いの場の提供を行っているようだが、中野市でもそれをアレンジして何かイベントを開催できないか検討している。

(質問3) 「信州中野市」を全国に発信する

- ・中野市の住民は、例えば小布施町のように「おもてなし」という面では劣ってしまうと考える。中野市は生産物で売り込むという方法はどうか。何でもいいので中野市が1位となるものを作りたい。

(回答3) 中野市単独でのアピールというよりは、広域(信越自然郷)で互いを補いながら長所を生かしていく方法が望ましいのではないかと考える。その中で、中野市の生産物を他の市町村が利用してくれれば、結果的に中野市のアピールや経済向上につながっていくと考える。

(質問4) 小水力発電の利用について

- ・小水力発電の利用について、ぜひ利用してもらいたいけどどのように考えているか。

(回答4) 小水力発電にかかるコストについては、やや疑念の残るところがある。ただ、例えば照明施設の電源として利用し、景観とのコラボレーションを図れば有効な利用が可能ではないかと考える。まずは地域としてはどのように考え、どのように利用していきたいかを検討いただき、明確なビジョンや計画をもって市へ提案してもらいたい。

(質問5) 市民会館、市役所庁舎など公共施設について

- ・近年木材の需要が減少してきているが、市民会館等公共施設に木構建築を用いるというのはどうか

(回答5) 全国には木構建築の公共施設がいくつか存在するが、木材でできているというだけでも珍しさゆえに人が集まってくるという認識を持っている。一つのサインとしては有効ではないか。また、サインという意味合いでは、中野市の道にそれぞれ各地区のアイデアによる名前を付けたいと考えている。行政主導の方法では他の住民の皆さんの理解を得るのが難しいが、地域住民主導で成功例を作ってもらえれば他の地域の皆さんにも波及して、良い取り組みになるのではないかと考える。